



北川の少数民族のマオアールシーツ村を訪れ、米17トンをはじめ食料や生活用品を同村と周辺の4つの村の方に届けました。



蚊帳を受け取られた農家のおばあさん。自宅でなんとか暮らしておられます。什邡(シーファー)にて。

## 清家総主事ら被災地で救援活動

### 現地 NGO と連携、奥地の少数民族に食料を届ける

5月12日に大地震に見舞われた中国・四川省の人々のために、愛の支援を続けてくださっていますことを心より感謝いたします。当機構では、皆様の愛の支援を用いさせていただき、被災された人々に物資だけでなく、心ケアの必要にも応えていきたいと願っております。愛する家族を、財産を失ない、苦しみの中にある被災者のために続けてご支援をお願いいたします。

テントで再開された学校の先生に学用品を渡す清家総主事



当機構の清家総主事と申スタッフが6月11日に、四川省から戻りました。両名は、震源地近くの大都市の成都を皮切りに大きな被害が出ている都江堰、什邡、綿陽、北川などに行き、現地で調達した食料品、テント、蚊帳、日用品と日本の中京医薬品から提供された市販薬(かぜ薬、湿布)や包帯などの救援物資を届けながら、被害状況の確認と今後のニーズを確認しました。この活動は、国際飢餓対策機構韓国、現地NGO(非政府民間援助組織)のヘイファー及び中国人のボランティアグループとの協力で進められました。

清家総主事は「被災地ではあちらこちらで仮設住宅の建設が始まっているが、すべての人々が仮設住宅に入れる見通しは立っていません。残念ながら、ある程度の社会的地位のある人から優先的に入居が割り振られています。まだしばらくは、ビニールシートで覆っただけの避難状態を余儀なくされる人々が多く残るものと思います。また、山間部で暮らす少数民族は、交通手段が絶たれているため物資が足りません。とくに主食の米などの食料や生活用品は支援に頼る以外に物が必要はまだあります」とし、被災地が依然として厳しい状況にあることを報告しました。

### ■学校の倒壊現場で悲しみにくれる親たち

また、「什邡市では、たくさんの学校を回りました。わかったことは、犠牲になった子どもの多くは中学生だったことです。校舎が耐震性の低い構造にもかかわらず3~4階の建築であったために多くの中学生が犠牲になりました。どこの学校でも親たちが集まっている姿をみました。成長期を迎え、育ち盛りの子どもを失った両親の悲しみは非常に深いです。」(清家総主事)と心のケアの必要性についての報告も

ありました。

### ■被災者の現実をみて絶句

申スタッフは「少数民族の村で、老婆が壊れた自宅の前で、コンクリートの固まりを一生懸命ハンマーで打ち続ける姿を目にしました。聞いてみると、中の鉄を取り出して売り、そのお金で食べ物を買うとのことでした。地震で何もかも失った中で、食べるためにハンマーでコンクリートを打ち続けるお婆さんの姿をみて言葉がでませんでした」と語りました。



子どもが亡くなった現場で学用品を見つけたお父さん(什邡市にて)

貧富の格差が非常に拡大している中国では、山間部に暮らす少数民族の方々はもともと貧しさに苦しんでおられるだけに今回の地震によるダメージははかり知れません。

当機構では、今回の被災地での活動を足がかりとし、協力関係にあるパートナー団体とも連携しながら、救援物資の配布活動を継続するとともに、日本人ボランティアチームの短期派遣、心のケアのための音楽コンサート開催のなども視野に入れて被災者の復興を応援していきます。引き続き、被災された隣国・中国の人々が再び立ち上がることができるようのために皆様からの愛の支援をお願いいたします。



親を亡くした子どもたちも多く、心のケアが子どもにも親にも必要になっている

## 愛の募金をお願いします

募金は、郵便振替00170-9-68590日本国際飢餓対策機構まで。

記入欄に必ず「四川省大地震」と明記ください。

問合せ先：日本国際飢餓対策機構 大阪事務所 Tel(072)920-2225 八尾市弓削町3-74-1